

II 調査結果の概要

1. 警察・警官と市民との接触の現状

(1) 警察官との会話経験

「あなたは、これまでに警察官と話を交わされたことがありますか」という問に対して、まず「何回もある」「少しはある」「全くない」のいずれか一つを選んで回答してもらった。ついで、警察官と話を交わした場所を複数回答で尋ねている。

警察官との会話経験では「何回もある」人が回答者の27%、「少しはある」人が7割、「全くない」人はごく僅かの3%となっている。経験がある程度には性差があり、「何回もある」は男性では33%、女性では20%と男性の方が13ポイントも多い。反対に「少しはある」は女性の方が多いが、「全くない」という人には男女差がない。では、話を交わした場所はどこかというところ、「交番」という人が回答者の81%と最も多く、次いで「路上」が回答者の5割、「警察署」が44%、「自宅で」が34%で、「会社などで」は一割にも満たない。

場所については顕著な性差があり、男性は「警察署」と「路上」での接触で女性を大きく上回り、女性は「自宅」で男性を大幅に上回っている。女性の場合は警察官による家庭調査の際の会話経験が多いということであろう。

(2) 交番の場所の利用しやすさと警察官の対応

まず最寄りの交番が利用しやすいところにあるかどうかについては、回答者の61%が利用しやすいところにあると回答し、利用しやすいところにはないとしたのは39%であった。しかし、警察への協力には拒否すると回答した者の場合、最寄りの交番が利用しや

すいところにはない答える割合が56%と、利用しやすいところにあるという人44%よりも12ポイントも多い。そもそも交番の立地条件が悪いことが協力を拒否する大きな理由になっているということだろう。これは警察への協力のしやすさを尋ねた問への回答からも読み取ることが出来る。つまり、非常に協力しやすいと答えた人の7割は交番が利用しやすいところあるとしているが、協力しやすさが減じることと交番が利用しやすいところがないことが連動している（図表1-1参照）。

図表1-1 交番・警察署の利用しやすさと警官の対応満足度

交番	利用しやすい	利用しにくい	満足	不満	どちらでもなし	行ったことない
男	58	42	17	14	45	24
女	64	35	20	14	46	21
警察署						
男	43	57	12	17	46	25
女	46	54	13	15	38	34

言うまでもなく、警察への協力は最寄りの交番の立地条件のみならず警察官の態度に対する満足度にも依存するものと思われる。そこで次に最寄りの交番の警察官の対応に対する満足度をみてみよう。

(3) 交番の警察官に対する満足度

「その交番の警察官の対応について、あなたは満足していますか、それとも不満ですか」という問に対して、「どちらでもない」が回答者の45%と最も多く、次いで「行ったことがないのでわからない」が22%、「満足している」が18%、「不満である」が14%となっている。回答にはほとんど性差はみられない。また一貫した世代差も認められない。

一般の市民にとって交番は比較的身近であっても警察署となるともっと遠い存在ではないだろうか。次に警察署を取り上げて接触事情を調べてみよう。

(4) 最寄りの警察署は利用しやすいところにあるか。

警察署となると交番よりも「利用しやすいところにある」という回答が20ポイント弱減り45%となって、反対に「利用しやすいところにはない」という回答が55%に達している。交番同様に性差は全く得られていない。また、警察への協力を拒否する回答者の75%は警察署が利用しやすい所にはないと回答している。立地条件の悪さが協力を得難くしていることが理解できるが、警察署における警察官の対応に対する満足度も協力を密接に関係しているに違いない。

全体としては、警察署の警察官の対応に「満足している」人が回答者の13%、「不満」という人が16%、「どちらでもない」が42%、「行ったことがないのでわからない」が29%となっている。

しかし、協力しないという人のうち警察官の対応に「不満」という人は44%と、協力可能な時間量には関係なくとにかく協力するという人々の回答とは際立った違いをみせている。つまり、警察官の対応に不満を覚えれば協力しないことになることを今回の調査結果は示している。

2. 警察に関するイメージ

(1) 「警察」の印象

「警察」からうける印象として、「頼りになる」「不偏不党」「秘密主義」「冷静な」「親切的な」「公正な」「正義の味方」「こわい」「高圧的な」「親しみのある」「いかめしい」「信用できる」の12の言葉のなかからあてはまるものを選んでもらった結果は図表2-1の通りである。最も多数の回答者が選らんだのが「高圧的な」(46%)で、次いで「頼りになる」(37%)、「秘密主義」(29%)、「こわい」「正義の味方」「親切的な」がいずれも25%で並んでいる。反対に、最も選ばれなかったのは「不偏不党」(8%)、次いで「親しみのある」(9%)である。

性差が顕著に認められる項目は、「秘密主義」(男性33%、女性25%)、「こわい」(男性18%、女性31%)の2項目である。

警察イメージの世代による違いは大きい。戦前から戦時中にかけての警察の記憶が消えていない層と戦後の民主警察しか知らない層とでは異なっていて当然であろう。主な世代差は次のようなものである。

「頼りになる」というイメージは20代後半で最も弱く、男女共に年齢があがるにつれて多くの回答者にみられる傾向がある。

「秘密主義」は、男性の回答結果では40代まで年齢があがるにつれて広く抱かれるようになり、女性では40代と60代以降が高くなるが、「秘密主義」という印象をもっている女性は男性の半分以下である。

「親切的な」については男性の場合、30代後半を底に、若い層ほど、また年を取るほど多くの人に抱かれている印象である。女性については一貫した傾向は認められない。

図表2-1 「警察」の印象

	頼りになる	不偏不党	秘密主義	冷静な	親切な	公正な	正義の味方	怖い	高圧的な	親しみある	いかめしい	信用できる
全体	37	8	29	13	25	17	25	25	46	9	22	20
10代 男	25	14	18	4	32	11	25	14	32	21	11	14
10代 女	39	9	17	13	17	9	26	65	44	4	17	17
20代 男	28	14	25	6	22	8	22	29	55	4	32	15
20代 女	28	10	18	25	27	17	24	34	45	4	16	20
30代 男	35	10	35	15	16	23	27	15	49	7	22	15
30代 女	35	3	27	14	24	14	30	28	44	10	18	15
40代 男	38	10	35	8	19	27	19	18	47	8	11	19
40代 女	41	7	34	10	24	13	37	31	56	10	34	18
50代 男	46	6	44	16	29	21	24	16	46	14	27	37
50代 女	46	7	16	13	30	17	20	27	37	14	23	17
60代 男	48	4	39	13	35	35	17	4	39	4	26	44
60代 女	44	4	48	4	30	13	17	13	30	22	26	44
会話経験												
何回もある	41	9	26	13	30	12	29	23	44	12	21	23
少しある	35	9	30	12	23	19	24	26	48	9	23	20
全くない	44	0	30	26	22	26	13	13	22	9	13	17

イメージ項目のなかで「高圧的な」は殆どどの年齢層でも選択した人が最も多く、世代によるばらつきが最も少ない項目となっている。性差はみられない。

他方、「親しみのある」は男性の10代と50代後半、女性の40代前半と50代以降を除き、この項目を選択した人は多くない。

「こわい」は10代の女性で特にずば抜けて選ばれており、この年代の回答者の65%に達している。女性の場合は年齢があがるにつれて減っており、男女共に60代以降には弱い傾向がある。

「信用できる」については男女の回答者共に30代が警察に対する不信感が強い。男性では50代以降、女性では60代が他の世代とは比較にならないほど警察は「信用できる」と受け止めている。

次に警察イメージと警察官との会話経験との関連をみてみよう。

まず、「秘密主義」「冷静な」「公正な」は警察官との会話経験が全くない人ほど選択する傾向のあるイメージである。

反対に、「親切的な」「正義の味方」「親しみのある」は会話経験の多い人により認められているイメージである。また、「こわい」「高圧的な」などは会話経験が「少しはある」人が抱えていることが分かる。

警察への協力を惜しまない人は「親切的な」「公正な」「正義の味方」「親しみのある」といった項目を突出して選択する傾向を示す。また、警察への協力拒否の人は、「秘密主義」「こわい」「高圧的な」「いかめしい」といった項目を選ぶ傾向が強い。これら拒否する人は警察の協力しやすさに対して、「非常に協力しにくい」と答えている。